

| | | |
|-------|---|---|
| No.48 | <p style="text-align: center;">城陽市歴史民俗資料館</p> <h1 style="text-align: center;">友の会だより</h1> | <p style="text-align: center;">発行 城陽市歴史民俗資料館友の会 (城陽市寺田今堀1番地) 編集:友の会広報担当</p> |
| | | <p style="text-align: center;">発行日 令和3(2021)年8月31日</p> |

これからの行事をご案内します!!

城陽市歴史民俗資料館友の会
会長 泰地 賢治

外は雨が降っています。秋雨前線の影響で西日本を中心に大雨が続いており、各地で被害が発生しています。夏の高校野球では降雨によるノーゲームやコールドゲームがありました。近年、このような夏の長雨があったでしょうか。日照不足による農作物への影響も心配です。

新型コロナウイルスの感染が止まりません。緊急事態宣言の対象府県に京都府が追加され、資料館の活動も自粛を余儀なくされています。また、京都府の感染増加もさることながら、ここ城陽市においても感染が急激に拡大しています(下表、城陽市「新型コロナウイルス感染者の発生」参照)。どうか皆様、三密を避け、感染対策を怠ることなく、ご自愛ください。

表 最近の城陽市における週ごとの感染者の推移

| 期間 | 7/4-10 | 7/11-17 | 7/18-24 | 7/25-31 | 8/1-7 | 8/8-14 |
|------|--------|---------|---------|---------|-------|--------|
| 感染者数 | 1名 | 8名 | 8名 | 14名 | 24名 | 61名 |

気がかりなことの多い昨今ですが、うれしいこともありました。それは、7月に新しく3名の会員をお迎えしたことです(現在の会員数84名)。一人でも多くの方にご参加頂き、友の会を益々有意義な場として発展させましょう。また、4月24日には昨年、コロナ禍のために中止となった家塚智子氏(源氏物語ミュージアム館長)による講演会「平安時代の山城—城陽市域を行き交う人々—」を無事、成功裏に行うことができ、ホッとしています。

さて、今後、参加者の安全を図ることを最も重要な課題としつつ、少しでも会員の皆様に楽しいひと時を過ごして頂けるよう色々と考えた結果として、次の行事を予定しています。

【1】研修見学会

見学先として「丹波篠山方面」を考えています。具体的な内容につきましては、現在検討中です。

【2】文化財講演会(9月18日)

演題(講師)＝「光秀・幽斎・義昭と城陽・宇治」(府立山城郷土資料館・伊藤太氏)

【3】古文書講座(10/29, 11/12, 11/26, 12/10)

演題(講師)＝「更級日記」全4回(資料館・田中香織氏)

【4】仏像講座

帝塚山大学附属博物館・城陽市歴史民俗資料館共催による令和3年度秋季特別展「神のすがた・仏のかたち—木津川流域より城陽・井手を中心に—」が行われます(10月23日～12月19日)。

その一環として次の講演会が開催されます。

①戸花亜利洲氏(帝塚山大学講師)「城陽・井手の仏をめぐる」(11月28日)

②杉崎貴英氏(帝塚山大学教授)「晩年期の快慶」(12月11日)

★尚、上記の特別展のため、恒例の戸花亜利洲先生による「仏像講座」はありません。

以上、多岐に亘る行事が予定されていますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては変更されることがあります。詳細は適宜ご案内します。よろしくご了承下さい。

友の会特別講演会

「平安時代の山城地域—城陽市域を行き交う人々—」

講師：宇治市源氏物語ミュージアム・宇治市歴史資料館館長 家塚智子氏

日時：令和3年4月24日（土）13:30～15:00 場所：文化パーク城陽西館3階第3会議室

参加者：39名

特別講演会に参加して

会員 山本 明子

城陽市に住んで数十年。この地は京都・奈良の中間地で通称“五里五里の里”として知られており、昔から人びとの往来により親しまれてきました。

この度、講師家塚智子氏が「平安時代の山城地域—城陽市域を行き交う人々—」というタイトルで講演されるということで、歴史の舞台で城陽市がどのように関わってきたのかと思い、楽しみに参加させていただきました。

源氏物語や蜻蛉日記、更級日記の中で描かれている箇所の説明があり、物語を語りだけでなく史実として実感することができました。当時、紙は貴重なものなのにこれだけの書物を執筆できたのは、作者が藤原家との繋がりがある紫式部や藤原道綱の母などであることから、藤原家が文化の中心を担っていたからだと納得しました。

蜻蛉日記の作者が藤原道綱の母とは知っていましたが、藤原兼家の妻と知り驚きました。兼家は一条天皇の祖父であり、藤原時代を築いた人物です。明治時代までの朝廷における地位を固めた時の人で、平安時代の人々は大きな歴史の転換期にいたのだと、興味深く思いました。また平安時代は、信仰のあり方が観音信仰から観音霊場信仰に移り変わり、国のためから自分のためが大事だという考えに変化していきました。自分で霊場参りに行き骨を折る思いをしてお参りすることが何より大切とされていたようです。ここに信仰に接する真摯な心根を感じました。長谷寺へ参詣した状況や観音霊場信仰のあり様と共に城陽の様子も描かれており、物語の景色の中に当時の人々の生活が生き生きと想像できる楽しさを改めて感じました。長谷寺への道中で記されているところでは、巨椋池や贅野池・新野池がありました。これらの池が長い形をしていたことが長池という地名の由来になったようで、それぞれの池の存在は、今ははっきりしないものの地名として残っていることを知りました。

この講演会に参加させていただき実際に平安時代の文化や歴史のお話を聞く中で、書物から伝わる以上に、今住んでいる城陽の歴史を垣間見ることができ、その当時を想像することができました。このような機会を頂き感謝しています。またの機会を楽しみにしています。



講演会の様子

講演会のご案内

担当役員 小林 心一

6月12日に予定していた講演会がコロナ禍のために中止となりましたが、9月18日に再度JOYO
エコミュージアム・歴史民俗資料館と共催で実施することとなりました。

演題 「光秀・幽斎・義昭と城陽・宇治」

講師 「京都府立郷土資料館資料課 伊藤太氏」による講演です。

そこで光秀や幽斎・義昭と城陽・宇治などの疑問を私なりに考えました。

- ※ 光秀とはそもそも何者なのか。
- ※ 足利義昭や細川幽斎(細川藤孝)は越前に匿われる。その時、光秀は義昭やその側近の細川幽斎と出会い、義昭を信長と引き合わせる。義昭は信長の力で京へ戻るものの、室町幕府最後の将軍となるのはなぜか。
- ※ 光秀は信長の下で一番の城持ちになる出世頭であるのは事実と思います。その人物がなぜ、本能寺の変の主人公となるのか。
- ※ 幽斎も光秀の娘の義父であり、友好は厚いものの本能寺の変後の動きがありません。幽斎は光秀の人物像をしっかりと見届けて動かなかったのはなぜでしょう。
- ※ 義昭はなぜ信長に助けられて将軍になったのに、信長を打倒するために各方面に檄文を飛ばすなど、打倒信長として戦い、信長に敗れ、室町幕府も滅亡するような方針しか取れなかったのか。
- ※ また義昭も本能寺の変を知って、なぜ動かなかったのか。

まだまだ疑問はありますが、皆様の疑問も解消してもらえるのではないかと講演会を楽しみにしています。

実施日時:令和3年9月18日(土)13:30~15:00

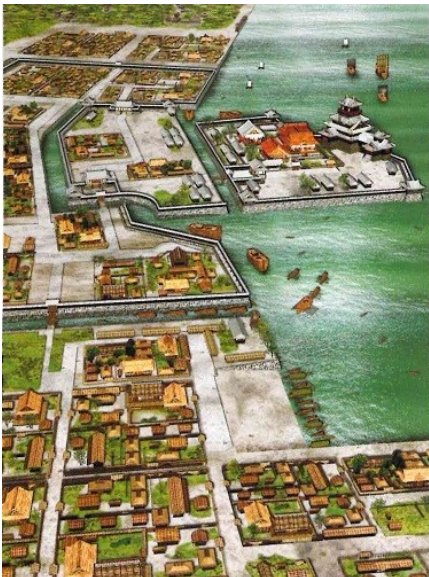
場 所:文化パーク城陽西館3階第3会議室

募集人員:約30名

会 費:無料

申し込み:9月10日(金)10:00~ 城陽市歴史民俗資料館に電話申し込み

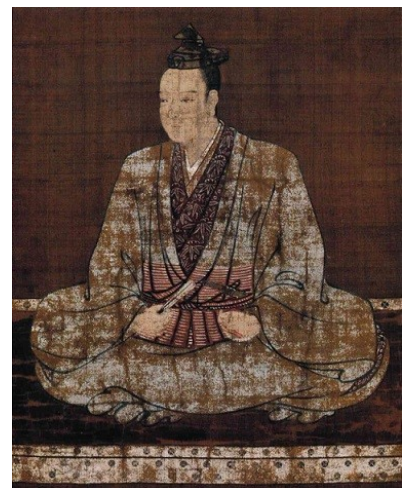
城陽市歴史民俗資料館 電話 0774-55-7611



光秀の居城 坂本城 週刊朝日ムック歴史道vol.13 P.25より転載



重要文化財 細川幽斎像
京都市天授庵蔵



明智光秀像(部分)
岸和田市本徳寺蔵

研修見学会のご案内

担当役員 小林 心一

コロナ禍の中で延び延びになっていた研修見学会を本年11月ころには実施したいと考えて、企画しております。

今回は兵庫県丹波篠山市を訪ねたいと思います。

この地は明智光秀が治めた地で八上城が有名ですが1579年(天正7年)6月に光秀により落城しました。今回は八上城跡を左手に見ながら車を進めます。篠山城は徳川家康の命によって1609年(慶長14年)に大阪城包囲を目的に「築城の名手藤堂高虎」よって築城、初代城主には家康の実子松平康重でした。天守は作られませんでした。石垣と堀、中には大書院でした。大書院は昭和19年に火災で焼失しましたが平成12年に再建されました。昔は交通の要衝であった丹波篠山の江戸時代以降の歴史を肌で感じてください。また実施当日は実りの秋と重なるように考えております。

実施日は未定ですが大勢の会員に参加してほしいのです。コロナ禍状況によっては計画が中止となることがあります。その時にご容赦ください。



篠山城跡大書院



丹波篠山市立歴史美術館

古文書講座 『更級日記を読む』ご案内

日時:全4回 隔週金曜日(下記) 午前10時00分~11時30分
10月29日、11月12日、11月26日及び12月10日

場所:文化パーク城陽西館3階第3会議室

講師:歴史民俗資料館 古文書・民俗文化財調査員 田中香織氏

定員:約30名

会費:会員:500円 一般:800円

(過去は資料代のみでしたが、会議室が有償となった為)

申込:10月22日(金) 10:00~

来館または城陽市歴史民俗資料館に電話で申込み

城陽市歴史民俗資料館 電話 0774-55-7611

更級日記は「友の会だより第47号(2021年3月)」でも紹介済ですが、菅原孝標女(おすめ)が寛仁4年(1020年)に父が任期を終え、一緒に帰京した13歳の頃から始まり、50代までの約40年間を書き綴った自叙伝であり回想録です。平安時代の中流貴族の生活や当時の女性の生き方がはっきりと読みとれるようです。

歴史民俗資料館からのお知らせ

帝塚山大学附属博物館・城陽市歴史民俗資料館共催

JOYOエコミュージアム 令和3年度秋季特別展

「神のすがた・仏のかたち―城陽・井手を中心に―」

1 展示期間

令和3年10月23日(土)～12月19日(日)

ただし、10月25日、11月1・4・8・15・22・24・29日、12月6・13日は休館

※関西文化の日11月3日(水・祝)と最終日の12月19日(日)は入館無料。

2 内容

京都府南部に位置する城陽市と井手町は、7世紀以降、数多くの寺社が建立され、歴史の表舞台において重要な役割を果たしてきました。両地域には今もなお数多くの仏教美術品が遺されていますが、これらが散逸することなく維持されてきた背景には、厚い信仰はもとより、教えを後世に伝えるようとする往時の人々のたゆまぬ努力が大きく影響しているといえます。

帝塚山大学附属博物館では、日本の仏教界に多大な影響を与えた両地域の振興と文化に着目し、昨年の秋に特別展「木津川をめぐる神と仏―井手・城陽の調査から―」を開催し、この展示をきっかけとして2件の出陳品が京都府暫定登録文化財に指定されました。

今回は、「木津川をめぐる神と仏―井手・城陽の調査から―」を引き継ぐ企画で、城陽市・井手町を中心に関連する地域にも目を向けて、個性豊かな仏教美術の名品を一堂に会し、相互の作風の違いを比較できる展示を行います。

3 主な展示物・展示構成(予定)

(1) 奈良時代の城陽・井手

- ・久世廃寺出土金銅誕生釈迦仏
- ・久世廃寺出土金銅菩薩立像断片
- ・平川廃寺出土塑像 ※城陽市指定文化財
- ・馬場南遺跡(神雄寺跡)出土塑像
- ・山田寺連坐塙仏(帝塚山大学所蔵)
- ・正道廃寺塙仏(城陽市教育委員会所蔵)
- ・井出寺跡出土唐三彩(井手町教育委員会所蔵)

(2) 平安時代の城陽・井手

- ・木造聖観音立像(西福寺所蔵) ※井手町指定文化財
- ・木造不動明王坐像(西福寺所蔵) ※京都府暫定登録文化財
- ・木造大將軍神像(旦稜神社所蔵) ※京都府暫定登録文化財 ※城陽市指定文化財

(3) 鎌倉時代以降の城陽・井手

- ・木造阿弥陀如来立像胎内文書(極楽寺所蔵) ※重要文化財
- ・大般若経(水度神社所蔵) ※城陽市指定文化財
- ・木造獅子頭(高神社所蔵)
- ・木造狛犬(水主神社所蔵) ※城陽市指定文化財
- ・銅造菩薩像頭部(伝釈迦寺跡出土)(山城郷土資料館所蔵)
- ・木造文殊菩薩騎獅像(地藏禅院所蔵)
- ・木造狛犬(玉津岡神社所蔵)
- ・木造狛犬(中天満神社所蔵)

4 関連事業

(1) ギャラリートーク（展示解説）

- ・日 時 10月30日(土)・12月5日(日) 14:00~15:00
- ・場 所 城陽市歴史民俗資料館 特別展示室
- ・対 象 小学生以上
- ・参加費 無料（ただし、入館料必要）
- ・申込み 当日資料館受付にて申込み

(2) JOYOエコミュージアム 資料館友の会共催 第90回文化財講演会

- ・テーマ 「城陽・井手の仏をめぐる」
- ・日 時 11月28日(日) 14:00~15:30（受付13:30）
- ・場 所 文化パーク城陽 第3会議室（西館3階）
- ・講 師 帝塚山大学 文学部講師 戸花亜利州氏
- ・定 員 先着30名
- ・参加費 無料
- ・申込み 11月19日(金)10:00から直接または電話にて申込み（定員に達した時点で終了）

(3) JOYOエコミュージアム 資料館友の会共催 第91回文化財講演会

- ・テーマ 「晩年期の快慶」
- ・日 時 12月11日(土) 14:00~15:30（受付13:30）
- ・場 所 文化パーク城陽 第3会議室（西館3階）
- ・講 師 帝塚山大学 文学部教授 杉崎貴英氏
- ・定 員 先着30名
- ・参加費 無料
- ・申込み 12月3日(金)10:00から直接または電話にて申込み（定員に達した時点で終了）

(4) ワークショップ「仏像スタンプでエコバッグをつくろう！」

- ・日 時 11月3日(水・祝)・11月21日(日) 1回目13:30~14:15、2回目14:30~15:15
- ・場 所 資料館工作室
- ・講 師 資料館職員
- ・定 員 先着各日8名（各回4名）
- ・参加費 200円（入館料を含む）
- ・申込み 各日とも10月30日（土）10:00から直接または電話にて申込み（定員に達した時点で終了）

研修見学会、文化財講座、古文書講座
など、様々な事業を企画しています。
ぜひご参加ください。



ごりごりくん

城陽市歴史民俗資料館友の会だより 第48号
発行日 令和3(2021)年8月31日
編 集 城陽市歴史民俗資料館友の会広報
連絡先 京都府城陽市寺田今堀1番地
城陽市歴史民俗資料館
電 話 0774-55-7611 fax 0774-55-7612